

令和8年度 第2回（通算第61回）
山梨県立博物館 運営委員会 次第

令和8年9月3日（木）午後2時～4時
博物館 生涯学習室

開 会

1 あいさつ

2 議 事

〈 審議 〉

- (1) 令和10年度の企画展について 【資料1】
- (2) 令和9年度の新規研究計画について 【資料2】

〈 報告 〉

- (1) 甲州財閥顕彰強化事業について 【資料3】
- (2) やまなし人物探訪の運営について 【資料4】
- (3) 歴民協年次集会の開催について 【資料5】
- (4) 開催済み展覧会について 【資料6】
 - ・特別展「山梨の禅宗文化」
 - ・シンボル展「「もう大丈夫！から」30年—地方病の時代をふりかえる—」
- (5) 資料・情報委員会の答申状況について 【資料7】
- (6) 利用者状況について 【資料8】
- (7) みんなでつくる博物館協議会の開催状況について

3 その他

閉 会

やまなし人物探訪の運営について

1. 経緯と課題

【経緯】

- ・ R7.10 山梨近代人物館の機能をやまなし人物探訪コーナーとして移設し、供用開始
- ・ やまなし人物探訪コーナーでは、山梨近代人物館から継承したデータを用い、近代の当県ゆかりの人物 50 名を紹介している
- ・ 運営委員会（第 57 回～第 59 回）において山梨近代人物館の機能移転について報告した際、より広い時代の先人を紹介するよう意見をいただいていた

【課題】 (1)現状は近代以前の人物紹介がないため、内容の拡充が必要

①パネル展示…近世の人物を紹介するパネル展示の実施

②デジタルサイネージへのデータ登録

…パネル展示の成果を活用してデータを登録し、公開する

※展示追加人物の選定にあたり、やまなし人物探訪展示人物選定委員会を組織し、選定基準や人物の選定などについて審議する(地域・分野・男女のバランスなども考慮)

(2)「山梨近代人物館」で開催していた普及事業を継承し、本県の歴史・人物に親しみを持ってもらうための講座を開催する必要

2. R8年度の取り組み

(1)やまなし人物探訪の拡充

第 1 回やまなし人物探訪展示人物選定委員会(委員長:江宮隆之氏、7 月 24 日開催)

→展示追加人物の候補リストを検討、委員から追加人物の提案をうける

初回のパネル展示・追加人物を山県大弐と木喰上人に決定

【スケジュール案】

～10月 第2回委員会(追加人物候補リストの確定・パネル内容の検討を予定)

～1月 パネル展示の実施(半年程度を想定、以降順次展示を実施)

～3月 デジタルサイネージ掲載コンテンツ作成・供用

(2)「やまなし人物探訪講座」の開催

- ・ 山梨近代人物館が行っていた教育普及事業(「人物学講座」)を継承したもの
- ・ やまなし人物探訪の拡充とあわせ、人物に焦点をあてた講座を開催することで、本県ゆかりの人物や歴史に親しみを持ってもらう

【今年度の開催実績・予定】

・ 6月21日(日)「地方病に挑んだ人々」倉持利明氏(目黒寄生虫館館長)

・ 7月 4日(土)「葛飾北斎の人と作品」内藤正人氏(慶應義塾大学教授)

・ 9月20日(日)「江戸の智の巨人 山縣大弐」江宮隆之氏(小説家)※予定

以降、11月・1月・3月に開催を予定している

歴民協年次集会の開催について

○全国歴史民俗系博物館協議会 令和 8 年度 歴民協年次集会

歴史民俗系博物館で構成される全国歴史民俗系博物館協議会（略称・歴民協）において、令和 8 年度、山梨県立博物館は代表幹事館となり、下記のとおり年次集会（全国大会）を開催した。

○年次集会詳細

【日程】

令和 8 年 7 月 23 日（木） 幹事館会・年次集会・情報交換会

24 日（金） 県内施設（26 館）見学（任意・個別）

【年次集会テーマ】

「ミュージアムの持続的運営に向けた課題と展望」

【年次集会次第】

11:00 幹事館会（生涯学習室）

13:00 年次集会 開会

13:10 研究集会（生涯学習室）

報告 1「地方博物館の資料収集－クラウドファンディングの挑戦－」

笹本正治氏（長野県立歴史館参与）

報告 2「静岡市歴史博物館開館前後の軌跡と課題」

鈴木将典氏（静岡市歴史博物館学芸員）

報告 3「小さな地域博物館の挑戦－南アルプス市のまるまる博物館活動とデジタル化」

中山誠二氏（南アルプス市ふるさと文化伝承館館長）

報告 4「持続可能な施設運営への転換とインバウンド対応」

布施光敏氏（ふじさんミュージアム館長）

16:15 パネルディスカッション

17:00 閉会

18:00 情報交換会（於：ホテル八田）

【参加者】

年次集会：84 名、情報交換会：48 名

【当日の様子】

- ・県内の博物館・資料館関係者を中心に、全国の博物館関係者が参加をした。
- ・報告 2 と関連した南アルプス市による VR のデモが休憩中などにおこなわれ、多くの参加者が実際に体験する様子も見られた。
- ・参加者に当館で過去に刊行した図録の配布もおこない、合計 128 冊配布をすることができた。
- ・生涯学習室等の広さがあまりなく、また廊下に設置した受付付近も広さが取れなかったため、人が密集してしまう場面が何度か見られた。

山梨県立博物館 開館 20 周年記念特別展
「山梨の禅宗文化」 終了報告

1. 概要

【内 容】

鎌倉時代以降、各地で展開した仏教の各宗派の中でも、禅僧・蘭溪道隆の来甲や、室町幕府で重用された夢窓疎石やその弟子たちの活躍など、禅宗は山梨と深い関わりを築いてきた。本展では、禅僧らがもたらした影響のほか、絵画や彫刻などの芸術作品を通して、山梨で展開した豊かな禅宗文化について紹介した。

【期 間】 令和8年3月14日（土）～同年5月6日（水）
会期日数54日（開館日数47日）

【主 催】 山梨県立博物館、山梨日日新聞社、山梨放送

【観覧料】 一般1,000（840）円、大学生500（420）円
※（ ）内は20名以上の団体料金、県内宿泊者割引
※ 常設+企画共通 一般1,260円、大学生590円

【主な展示資料】

国宝「達磨図」（向嶽寺蔵）、達磨像図（恵林寺蔵、信玄公宝物館保管）、「達磨図」（東光寺蔵）、重要文化財「蘭溪道隆像（経行像）」（建長寺蔵）県指定文化財「釈迦如来坐像」（安国寺蔵）、重要文化財「夢窓疎石像」（妙智院蔵）、重要文化財「夢窓疎石坐像」（古長禅寺蔵）、県指定文化財「蘭溪道隆書簡」（東光寺蔵）、「武田信玄書状」（妙智院蔵）、市指定文化財「快川紹喜像」（恵林寺蔵、信玄公宝物館保管）、県指定文化財「宝冠釈迦如来坐像」（栖雲寺蔵）、市指定文化財「孤峰覚明像」（月江寺蔵）、重要文化財「武田信虎像」（大泉寺蔵）、市指定文化財「曹洞宗法度（永昌院文書）」（永昌院蔵）、県指定文化財「穴山信友夫人像」（南松院蔵）、「甲州龍華山御建立次第」（永慶寺蔵）、「柳沢吉里自筆和歌」（東光寺蔵）、重要文化財「陶弘景聴松図」（当館蔵）、重要美術品「蘭石図」（当館蔵）、県指定文化財「渡唐天神像」（一蓮寺蔵）、市指定文化財「蛤蜊観音図」（月江寺蔵）等 123件

【関連イベント】

○講演会

「甲斐の禅宗文化」

講師：守屋正彦（当館館長）

日時：3月14日（土） 13：30～15：00

場所：生涯学習室

参加者：115名

「禅宗と女性」

講師：古川周賢氏（恵林寺住職）

日時：4月19日（日） 13：30～15：00

場所：生涯学習室

参加者：187名

○座禅体験

講師：青柳真元氏（栖雲寺住職）

日時：4月11日（土） 9：00～12：00

場所：栖雲寺（甲州市大和町木賊 122）

参加者：10名

○かいじあむ講座

「禅宗の彫刻—甲斐国を中心に—」

講師：近藤暁子（当館学芸幹）

日時：3月29日（日） 13：30～15：00

場所：生涯学習室

参加者：37名

「甲斐国に残された禅宗絵画」

講師：松田美沙子（当館学芸員）

日時：5月3日（日） 13：30～15：00

場所：生涯学習室

参加者：51名

○あそぼう！まなぼう！寺子屋ひろば

3月21日（土）「ミニ掛軸を作ろう」参加者：26名

4月18日（土）「禅語を描いて香袋を作ろう」参加者：26名

5月 2日（土）「蓮の花を作ろう」参加者：22名

5月 5日（火）「だるまを作ろう」参加者：33名

時間：11：00～30分程度

※5月5日のみ10：00、13：00～30分程度

場所：かいじあむ寺子屋

○学芸員によるギャラリートーク

日時：3月22日（日）、4月3日（金）、26日（日）、5月5日（水）

いずれも15：00から1時間程度

【発行物】 図録 A4変形・144頁 800部（館内用）

2. 入場者数

【入館者数】 8, 767名 (1日平均入館者数: 187名)

3. 広報

【印刷物】 ・ポスター B2 1, 100枚

・ちらし A4 33, 000枚

【マスコミでの紹介】 ・報道番組 (山梨放送)、新聞記事 (山梨日日新聞 連載など)、
SNS (山梨日日新聞社、山梨放送)

4. 総括

- ・本展は山梨と“禅宗”をテーマとし、当館で初めて開催した展覧会で、『山梨県史』の成果を踏まえながら、絵画・彫刻をはじめ、県内寺院に伝来した古文書などを中心に、山梨における禅宗の受容の歴史とその展開を紹介する内容とした。
- ・国宝「達磨図」(向嶽寺蔵)は、所蔵者の意向により、展示期間が令和8年3月14日(土)から23日(月)までの限定公開となった。しかし、「達磨図」を目当てに来館する観覧者が多く見られ、展示期間中は一定の集客効果が認められた。
- ・国宝「達磨図」以外にも、重要文化財14点、県指定文化財25点、市指定文化財28点が出展されるなど、展示資料の半数以上を指定文化財が占める展示内容となった。これにより、普段は公開機会が限られ、なかなか目にすることのできない貴重な文化財の数々を、多くの観覧者に鑑賞していただく機会を提供することができた。
- ・一方、展示内容の専門性の高さ等が影響した関係か、来館者数は伸び悩む結果となった。今後は、専門的なテーマを扱う展覧会においても、その魅力を分かりやすく伝える広報をおこない、より多くの来館者を呼び込むための工夫をすべきと感じた。

令和8年度 シンボル展
「もう大丈夫！」から30年—地方病の時代をふりかえる—
終了報告

1. 概要

【内 容】

令和8年(2026)は、平成8年(1996)2月19日に地方病(日本住血吸虫症)の流行終息宣言が発出されてから30周年にあたることから、本シンボル展を開催した。

地方病は、寄生虫(日本住血吸虫)を原因とする感染症だったが、かつては原因不明の病として恐れられてきた。明治37年(1904)に原因が特定され、大正2年(1913)には中間宿主ミヤイリガイが発見されが、その流行終息にはなお80年以上の時間を要し、県民にとって大きな足跡であるとともに、感染症をめぐる人類の闘いという視点においても重要な到達点であるともいえる。一方で、その記憶と記録は散逸の危機に直面しており、地方病に改めて光を当てる必要性と、この経験と得られた知見が、地域における重要な財産でもあることを指摘する機会とした。

【期 間】 令和8年5月23日(土)～6月29日(月)
 会期日数38日(開館日数33日)

【主 催】 山梨県立博物館

【協 力】 昭和町風土伝承館 杉浦醫院、宮入慶之助記念館

【観覧料】 常設展観覧料
 一般520(420)円、大学生220(170)円 1
 ※ ()内は20名以上の団体料金、県内宿泊者割引

【展示の構成とおもな展示資料】(特に注記がないものは当館蔵)

○第1章 地方病と山梨

「もう大丈夫！」地方病流行終息宣言広報ポスター、翻訳断毒論、
 啓発冊子「俺は地方病博士だ」

○第2章 地方病に向き合う

水腫脹満妙薬通養散ちらし、駆虫薬スチブナール、半纏(四〇六医学研究所医薬補給部)(昭和町風土伝承館 杉浦醫院蔵)

○第3章 地方病に挑んだ人々

死体解剖御願(寄託資料)、宮入慶之助原稿「フリードリヒ・レョフレル先生」(宮入慶之助記念館蔵)、「地方病に挑む会」関係資料

○第4章 山梨以外の地方病

片山記(写し)、各県の地方病関係資料、海外の地方病啓発ポスター

○第5章 『絵で見る和子さんの地方病』

物語絵本『絵で見る和子さんの地方病』、物語絵本『絵で見る和子さんの地方病』原画

合計37点

【関連イベント】

○講演会「ちょっと詳しいシンボル展「もう大丈夫！」から30年」

講 師：小畑茂雄（当館学芸課長）

日 時：5月31日（日） 13：30～15：00

場 所：生涯学習室

参加者：27名

○講演会「地方病に挑んだ人々」

講 師：倉持利明氏（目黒寄生虫館 館長）

日 時：6月21日（日） 13：30～15：00

場 所：生涯学習室

参加者：53名

○講演会「伝えていきたい地方病－絵で見る『和子さんの地方病』（物語絵本）を通して－」

講 師：出井寛氏（昭和町風土伝承館 杉浦醫院 館長）

日 時：6月28日（日） 13：30～15：00

場 所：生涯学習室

参加者：55名

○学芸員によるギャラリートーク

日 時：5月23日（土）、6月6日（土）、6月27日（土）

15：00～16：00

場 所：企画展示室

【刊行物】 リーフレット A4版・4頁 3,000部（無料配付）

2. 入場者数

【入館者数】 4,173 名（1日平均入館者数：126.5名）

3. 広報

【印刷物】

・ポスター （B2サイズ） 600枚

・ちらし （A4サイズ） 20,000枚

【マスコミでの紹介】

・別添の新聞記事のほか、NHK や YBS のニュースでも多く取り上げられた。

4. 総括

- ・全体として、患者写真など病の恐ろしさを強調するような手法は採らず、資料を中心に地方病に向き合った人々の姿を浮き彫りにする展示表現とした。
- ・古写真などは、可能な範囲でカラー化処理をして、画像の理解のしやすさを促進した。一方で壁面に大きく伸ばして表現し、風景や人々の姿の臨場感を高める処理をおこなった。
- ・実物資料については、県衛生公害研究所（当時）から引き継いだ資料を中心としつつ、杉浦健造・

三郎医師親子や宮入慶之助博士関連資料などの借用資料によって、地域的な視野を広げる展開を確保した。

- ・ 展覧会の事業名称については、「地方病流行終息宣言 30 周年」という固い表現を避ける目的で、同宣言発出時に作られたポスターに掲げられたキャッチフレーズである「もう大丈夫！」を象徴的に使用した。
- ・ 資料については、ミヤイリガイの実物、顕微鏡で見ることができる日本住血吸虫の実物（いずれも杉浦醫院提供）を展示し、地方病の実態を自然科学的に理解できる展示とした。
- ・ 展示の締めくくりは、物語絵本『和子さんの地方病』原画の展示とすることで、固く重苦しい地方病の対策史を、ひとりの登場人物の生涯を通して概観できるやわらかい視点を確保した。
- ・ 同絵本や関連書籍については、ミュージアムショップで販売した。
- ・ 講座やグッズの販売において、目黒寄生虫館の協力を仰ぎ、寄生虫関係の関心のある層にも届く構成とした。
- ・ 広報については、展示期間の初頭に NHK と YBS の夕方のニュースに取り上げられたことが効果的であった。新聞などの紙媒体においても継続的に取材があった。
- ・ 集客面では前項の話題性もあったが、コロナ以前の初夏開催シンボル展の平均（127.5 人／日）と同程度となった。また昨年同時期に開催したシンボル展「甲府空襲展」を 22%程度下回った。

日本住血吸虫症は、風土病のように日本の限られた地域に流行していた寄生虫病で、山梨県が流行終息宣言を發した。日本住血吸虫がヒトや他の哺乳類に寄生することで起こる病気で、慢性期には肝硬変に陥り黄疸を起し、腹水がたまり、衰弱の末に亡くなるという悲惨なものでした。



多くの死者を出したこの病気の、との闘いは115年も続き、たのは1996年のことでした。他の流行地（広島県、福岡県・佐賀県）の安全宣言から遅れること5、6年。それは山梨の流行地が広大で、他の地方がミヤイリガイを根絶したのに対し、甲府盆地には生息し続けたためでした。それでも終息宣言から30年、地方病の再燃を見ることがなく経過することができました。

虫卵は水中で孵化。幼虫はミヤイリガイに入り、貝の体内で無性的に増え、泳ぎ出る。録は山梨の随所に残され継承とヒトなどの皮膚から入りまされていきます。昭和町風土伝承館杉浦健造は、杉浦健造・伊の格好のすみかでした。その三郎面医師による地方病制圧のため、農作業をする人々への功績を次世代に残すため、病苦にさらしてきたのです。に、町が土地・建物を買取り、甲府盆地は最大の流行地で、一般公開したものです。

地方病語り継ぐ機運に乗って



倉持 利明
目黒寄生虫館 館長

同館編集による「地方病を展『もう大丈夫！』から30語り継ぐ」流行終息宣言から25年」と「絵で見る和子さんの地方病」は、もはや歴史資料として重要で、出井寛館長は「語り継ぐ」活動に尽力され、小学校での出前授業、地方病教育推進研究会のサポートもなされています。同館

のブログもたいへん勉強になります。

もう一つは県立博物館で、地方病に関する常設展示が見られる他、当時、地方病の検査（検便）やミヤイリガイ対策を主導した県衛生公署研究所（現・衛生環境研究所）からの移管資料が大量に収蔵されています。現在、シンボル

「もう大丈夫！」から30年の資料が手厚く保存されており、それが私には「地方病を語り継ぐ」機運のように感じられます。本紙読者の方々は、ぜひこの機運に乗っていただきたいと考えます。私にとつて最も印象的な出来事は、2021年に南アルプス子どもの村中の生徒さんたちが「地方病の絵本を作っているのを手伝ってほしい」と来館されたことです。「子どもたちに地方病を伝えたい」という思いから自ら取材して書き上げた「中学生が伝える恐ろしいやまい・地方病」は書店に並んでいます。地方病の制圧は、国、学者、地方行政、地域の医師・住民が一体となつて勝ち取った成果です。この事実から私たちは、感染症に関する正しい知識・情報を共有すること、対策には全員が参加すること、学ばなくてはなりません。

くらもち・としあきさん 1955年東京生まれ、埼玉育ち。東京水産大・東京農工大卒。岐阜大大学院連合獣医学研究科修了、博士（獣医学）。京急油壺マリンパーク、日本南極地域観測隊第32次夏隊、日本歯科大、国立科学博物館を経て、2021年4月から目黒寄生虫館館長。

地方病の歴史未来へ

終息30年 県立博物館でシンボル展

かつて甲府盆地で流行し、流行終息宣言から30年を迎えた地方病（日本住血吸虫症）をテーマにしたシンボル展「もう大丈夫！」から30年―地方病の時代をふりかえる―が、笛吹・県立博物館で開かれている。地方病の被害や終息に尽力した人たちの活動などを紹介、かつて原因不明の病として恐れられた病の歴史を振り返る。

地方病は、宮入員の中で死に至ることもある。山梨のほとと恐れられたといわれる。1925年以降、薬剤カリコが皮膚を食い破り、甲府盆地でまん延。国散布による殺虫活動や水路人体に寄生。成虫が産んだ内最大の流行地で、地域にのコンクリート化事業が進み、県が96年、流行終息宣言を出した。



殺虫作業の様子（1961年）

対策に尽力

展示は5章構成で、第1章は地方病と山梨の歴史を紹介。山梨で最も古い地方病に関する記録が見られる武田氏の軍書「甲陽軍鑑」や江戸期の関係記録が載る医学書「蘭訳新書論」、大正時代に感染予防を呼びかけた啓蒙冊子、昭和時代の



地方病の原因解明のために自らの遺体解剖を申し出た「死体解剖御願」
―笛吹・県立博物館

予防啓蒙ポスター、殺虫道「苦しむ人たちの助けになつてほしい」という切なる思いが伝わってくる。第4章は広島、埼玉などの国内のほかの流行地や中国、フィリピンなど海外の間宿主の宮入員が発見されたことで対策が進む。第2章では、日本住血吸虫の標本、宮入員、駆虫薬「ステファナール」などを展示し、明治から大正にかけて進んだ原因解明、医療や予防の普及について解説する。

つらい記憶

第3章は「病に挑んだ人々」を題し、明治から昭和にかけて地方病対策に尽力した人々を紹介。宮入員を発見した宮入慶之助博士、地方病の研究に尽力した藤浪鑑博士、調査や研究、治療に取り組んだ杉浦医院（昭和町）の杉浦健造医師、恵子の三郎医師らの資料が並び、末期状態にある女性が自らの遺体解剖を申し出た「死体解剖御願」もあり、博物館、電話055（2612631）。



感染予防を呼びかける啓蒙冊子「俺は地方病博士だ」（表紙）
1917年

論説

かつて甲府盆地でまん延し、県民を苦しめた地方病（日本住血吸虫症）について、山梨県が1996年2月に「流行終息宣言」を出してから、今年で30年となった。2月には県が「地方病との闘い」をテーマにシンポジウムを開催し、県立博物館では現在、シンボル展『もう大丈夫！』から30年―地方病の時代をふりかえる』が開かれている（20日まで）。

本紙も2月に、罹患したことのある人や医師の体験などを伝える連載をした。一定以上の年代の方は、自身や両親、祖父母の体験を重ね、当時の苦勞を思い返した人が少なくないのでは。一方で懸念されるのが、記憶の風化だ。宣言後に生まれた世代など、ピンとこないという人が多いのが実情だろう。気にせずには暮らせる現状は幸いだが、

「地方病」終息宣言30年 6/20(土) 山梨

風化させずに伝える教育を

そこに至るまでに「100年戦争」と言われた先人の苦闘があったことを忘れてはなるまい。古くは甲陽軍鑑にも関連記述がある病で、1881年に東山梨郡春日居村（現笛吹市）の戸長が県に調査を求める御指図願いを出した時から数え、終息宣言まで115年を要した。その間、

知られた昭和町の杉浦医院に通い治療の注射を受けた。筆者の子どもの頃でも、裸足で川や田に入るなど言われたものだ。対策が進み、終息宣言時には既に社会の関心も薄れつつあったが、驚いたのが宣言後20年の2016年の調査。比較統合医療学会が有病地だった甲府など

「病院」の出井真館長によると、有病地だった11市町の社会科副読本（小学3、4年）を20年に調べたところ、地方病の記載があるのは5市町にとどまった。同館は、地元・昭和の小学校全3校が毎年、社会科見学で訪れる。その他、元教員らでつくる地方病教育推進研究会の協力

果樹への転換など、良くも悪くも山梨の景観や産業を変えた近現代史③地方病を巡る一人一人の生き様などの民衆史を学ぶこの先に生かすことだと話す。同館は終息宣言から25年を機に48人の体験記を載せた「地方病を語り継ぐ」を編集したが、さらに聞き書きをした13人を加えた改訂版を計画している。戦争について自身の体験として語れる人が少なくなっている平和教育と同様、それを知る世代の高齢化が進む中で、実感を持つて継承する取り組みは重要だ。

自ら申し出た女性患者の解剖、寄生虫や中間宿主の宮入員の発見があり、住民らによる殺鼠活動、溝渠のコンクリート化など、宮入民の取り組みがあった。筆者の地元はその昔、「嫁に行くには棺桶を背負って行け」と言われた有病地で、昨春、卒寿を目前に上った父は中学、高校時に罹患し、地方病治療で

5市町で認知度を聞いたところ、中学生約2千人のうち病歴のある日本住血吸虫と答えられたのは0・26%、媒介する生物は宮入員は2・15%だったという。無理もないと思いつつ、伝え継ぐ教育の必要性を感じた。学校でどの程度教えられているのか。現在は伝承施設となっている「昭和町風土伝承館 杉浦

を得ながら、昨年は町外十数校で出前授業をした。ただ、かつての有病地の学校の一部だ。もとより、各市町、学校現場で継承の機運を高められないか。地方病を語り継ぐ意義について、出井館長は「日本で二つの病を制圧し、その中核を山梨の人々が担った誇るべき歴史の溝渠のコンクリート化や水田から

研究が23年に発足して出張講座や研究会を開くなど、新たな動きもさまざまある。そんな各地の施設、資料、取り組みを生かしていつ伝え継ぐか。教育の在り方を県全体で考える時に来ているのではないか。（保坂真吾）

資料・情報委員会の答申状況について

1. 令和8年度 資料・情報委員会委員一覧(50 音順、敬称略)

氏名	専門分野	肩書
石居 人也	日本近現代史	一橋大学教授
黒田 基樹	日本中世史	駿河台大学法学部長
小島 孝夫	民俗学	成城大学教授
鈴木 卓治	情報工学	国立歴史民俗博物館教授
鈴木 麻里子	日本美術史（彫刻）	山梨県文化財保護審議会委員
内藤 正人	日本美術史（絵画）	慶應義塾大学教授
新津 健	考古学	元山梨県埋蔵文化財センター所長
西村 慎太郎	日本近世史	国文学研究資料館教授

※任期は2年間（R8.5.1～R10.4.30）

2. 令和8年度 第1回(通算第42回)委員会の内容

【開催日時】 令和7年8月27日（木）14:00～16:00

【出席者】 石居人也委員・小島孝夫委員・鈴木卓治委員・鈴木麻里子副委員長・
新津健委員長

【審議内容】

資料の収集について

8件（約55点）の収集資料候補（寄贈・寄託）についての審議を行った。

【審議資料】

(1) 寄贈 7件

1	しんらだいけいず 新羅大系図	1 巻	若桜武田氏の一族である武田信豊が記したという体裁を有する源氏系図。特に逸見氏の系統を詳細に記している点に特徴がある。清光寺や八幡大神社（北杜市長坂町）、あるいは逸見神社・八幡宮（北杜市大泉町）に関係するものか。
2	ろくみようごう 六字名号 もくじきびやくどうさく 木食白道作	1 幅	「南無阿弥陀仏」の六文字を記した六字名号。現在の甲州市塩山出身の木食僧・白道が記したもの。長野県上伊那郡の旧家に伝来と伝える。文字のほか、「アー」〈梵字〉、「壽」、「佛法僧寶（菱形）」、「木食」、「木食之印」の印が見られる。

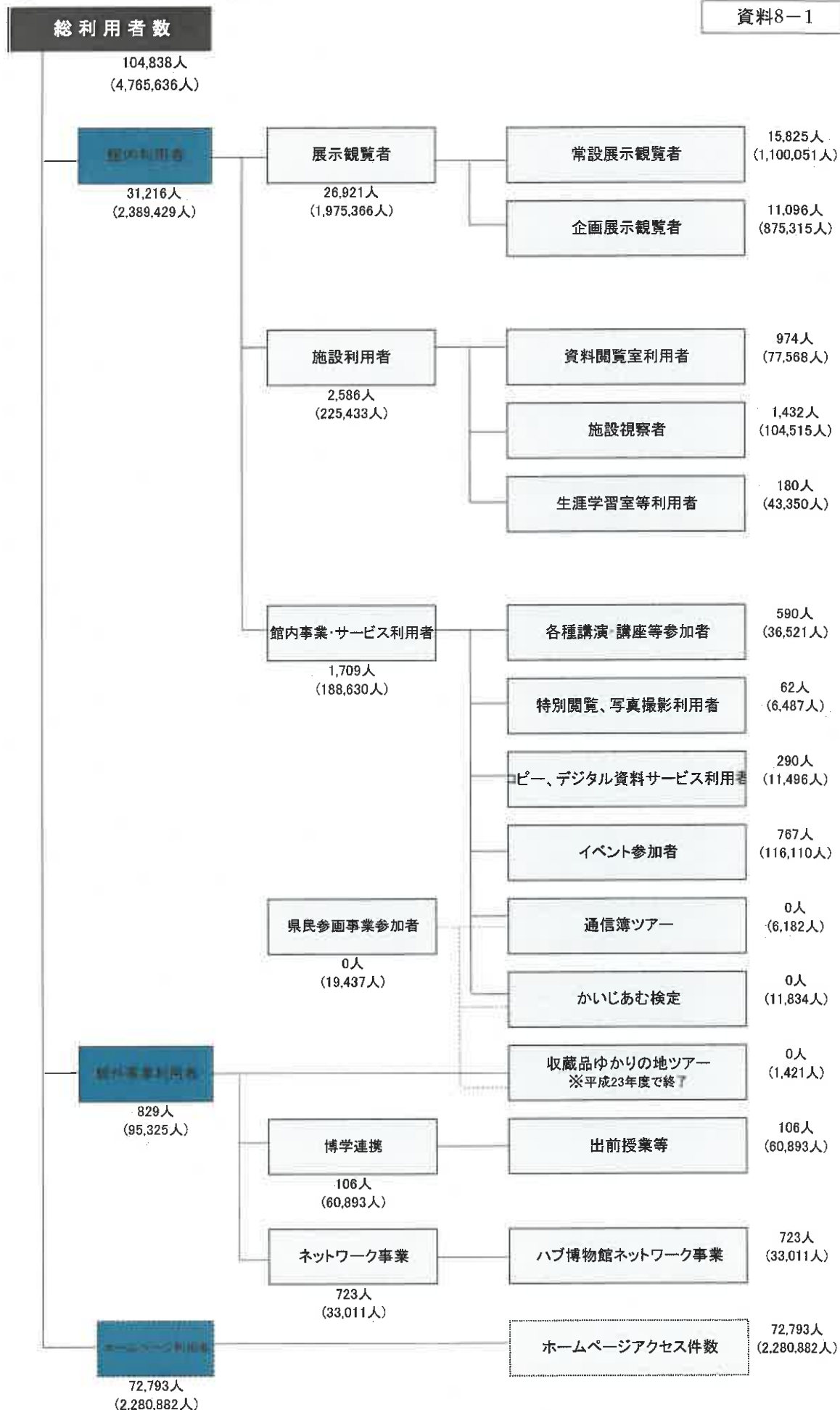
3	ろくじみようごう 六 字 名 号 もくじきびやくどうさく 木 食 白 道 作	1 幅	「南無阿弥陀仏」の六文字を記した六字名号。現在の甲州市塩山出身の木食僧・白道が記したもの。伝来は不詳。文字のほか、「壽」、「佛法僧寶（菱形）」、「甲斐木食白道」、「木食之印」の印が朱で捺されている。
4	ろくじみようごう 六 字 名 号 もくじきびやくどうさく 木 食 白 道 作	1 枚	「南無阿弥陀仏」の六文字を記した六字名号。現在の甲州市塩山出身の木食僧・白道が記したもの。伝来は不詳。文字のほか、「壽」、「佛法僧寶（巾着型）」、「木食之印」の印が朱で、「甲斐木食白道」の印が墨で、捺されている。
5	ろくじみようごう 六 字 名 号 もくじきびやくどうさく 木 食 白 道 作	1 枚	「南無阿弥陀仏」の六文字を記した六字名号。現在の甲州市塩山出身の木食僧・白道が記したもの。伝来は不詳。文字のほか、「壽」、「佛法僧寶（巾着型）」、「甲斐木食白道」、「木食之印」の印が朱で捺されている。
6	てんじんず 天 神 図（わはら みや の 宮） もくじきびやくどうさく 木 食 白 道 作	1 幅	享和3年（1803）、木食白道が、自身の生誕地である上萩原村上原（甲州市塩山）で萩原天満宮の建立に携わった際、寄進者に配ったと伝えるもの。円の中に天神（菅原道真）が描かれ、「佛法僧寶（巾着型）」、「木食之印」の朱印が捺されている。
7	かいこしゅござ 蚕 守 護 図 もくじきびやくどうさく 木 食 白 道 作	1 枚	右手に桑の枝を、左手に繭を手にした尊像をあらわす。上野原市内には本作の版木が現存しており、白道が当地に滞在したとされる寛政9年（1797）頃の制作とみられる。「佛法僧寶（巾着型）（菱形）」、「木食之印」の朱印が捺されている。

(2) 寄託 1 件

1	わたなべせいしゅう 渡 邊 青 洲 しゅうしゅうしりょう 収 集 資 料	48 点	青洲文庫で知られる、明治時代の素封家、渡邊信（号：青洲）が収集もしくは制作した絵画などの資料群。青洲自身が描いた絵画作品の他、近世～近代の作家の作例などの資料が含まれている。
---	---	------	---

【審議結果】

すべて収集が適正であると判断された。



※()内の数値は平成17年度分から令和6年度1月分までの実績数値の総計である。

総利用者	館内利用者 (a+b+c)										館外利用者									
	展示利用者 (a)					施設利用者 (b)					館内事業・サービス利用者 (c)					通観覧				
	常設展示		企画展示 (常設)			資料閲覧室		施設観察者			講座・講演会		特別閲覧・特別閲覧等			イベント		通観覧		
	常設展示	企画展示 (常設)	常設展示	企画展示 (常設)	企画展示 (常設)	資料閲覧室	施設観察者	施設観察者	施設観察者	施設観察者	講座・講演会	特別閲覧	特別閲覧	特別閲覧	特別閲覧	イベント	参加者	通観覧	かいじあむ	検定
17年度	143,415	114,412	98,578	66,274	32,304	10,889	6,085	1,190	3,614	4,945	1,321	92	209	2,911	180	232	433	282	151	0
18年度	221,107	149,254	124,182	92,277	31,905	16,043	7,957	3,674	4,412	9,029	2,604	263	479	5,213	345	125	1,451	195	156	1,100
19年度	203,261	126,055	105,596	66,291	39,305	13,908	7,306	3,486	3,116	6,551	1,515	219	496	3,861	240	220	4,833	166	1,317	3,350
20年度	169,893	97,551	73,419	49,634	23,785	12,461	4,754	4,262	3,445	11,671	1,649	265	549	8,613	143	452	2,781	180	1,076	1,525
21年度	233,815	145,172	119,288	59,508	59,780	13,034	4,399	6,640	1,995	12,850	3,553	330	488	7,029	231	1,219	5,194	274	3,871	1,049
22年度	231,369	145,518	112,363	56,505	55,858	12,553	3,354	6,800	2,404	9,378	2,472	276	402	4,943	166	1,118	4,553	183	3,721	754
23年度	200,843	112,026	90,090	49,858	40,232	11,120	2,983	4,769	3,368	9,431	3,003	306	427	4,633	183	879	7,110	0	6,077	1,033
24年度	200,181	107,246	86,895	49,341	37,354	10,900	4,057	4,295	2,538	9,252	1,635	422	453	5,443	468	831	7,220	0	6,350	870
25年度	213,116	121,898	101,746	57,060	43,886	10,900	3,608	3,373	2,352	7,933	1,139	278	359	5,312	364	481	5,548	0	4,740	808
26年度	200,824	109,886	92,621	47,119	45,502	9,334	3,608	3,373	2,352	7,933	1,139	278	359	5,312	364	481	5,548	0	4,740	808
27年度	252,303	155,517	135,417	57,879	77,538	11,273	4,140	1,892	8,827	1,309	306	306	343	5,673	396	800	5,303	0	4,434	869
28年度	202,665	97,898	75,051	41,133	33,918	9,405	2,924	4,569	1,912	13,442	2,105	335	545	9,431	267	759	10,071	0	4,327	5,744
29年度	236,110	131,264	105,822	55,118	50,704	10,563	3,191	5,818	1,554	14,879	1,190	310	728	11,604	240	807	6,646	0	4,207	2,439
30年度	221,157	111,365	89,066	45,437	43,629	11,097	3,483	5,142	2,472	11,202	1,241	818	725	7,253	400	765	8,122	0	3,862	4,280
31・1年度	236,880	116,491	96,081	47,775	48,306	11,173	3,200	6,117	1,856	9,237	1,802	748	729	5,072	271	815	9,486	0	4,701	4,785
2年度	148,749	36,078	31,602	20,669	10,933	2,599	67	2,240	292	1,877	185	400	100	627	278	287	1,953	0	1,953	0
3年度	228,571	76,785	69,266	34,963	34,303	6,254	1,423	4,129	702	3,265	644	240	377	1,370	470	164	2,988	0	2,988	0
4年度	267,334	95,740	80,035	42,870	37,165	8,399	2,382	5,416	600	7,307	1,403	209	387	4,467	400	441	2,044	0	1,575	469
5年度	261,855	94,510	80,589	43,364	37,225	6,997	1,862	4,244	891	6,924	1,097	191	754	4,371	276	235	1,838	0	1,111	727
6年度	266,674	88,275	74,470	42,700	31,770	7,051	2,454	4,104	493	6,754	1,378	155	1,164	3,424	338	295	1,472	0	605	867
7年度	320,876	123,270	106,468	57,651	48,817	9,935	2,894	5,856	1,185	8,867	1,948	179	1,046	2,972	338	382	1,517	0	895	722
8年度	104,838	31,216	26,921	15,825	11,096	2,586	974	1,432	180	1,708	590	62	290	767	0	0	829	0	106	723
計	4,785,636	2,389,429	1,975,366	1,100,051	875,315	271,410	77,568	104,515	43,350	189,830	20,321	6,487	11,496	116,110	6,182	11,834	95,325	1,421	60,893	33,011

■R8年度 県立博物館利用者状況(月別集計)

総利用者	館内利用者 (a+b+c)										館外利用者									
	展示利用者 (a)					施設利用者 (b)					館内事業・サービス利用者 (c)					通観覧				
	常設展示		企画展示 (常設)			資料閲覧室		施設観察者			講座・講演会		特別閲覧・特別閲覧等			イベント		通観覧		
	常設展示	企画展示 (常設)	常設展示	企画展示 (常設)	企画展示 (常設)	資料閲覧室	施設観察者	施設観察者	施設観察者	施設観察者	講座・講演会	特別閲覧	特別閲覧	特別閲覧	特別閲覧	イベント	参加者	通観覧	かいじあむ	検定
4月	21,469	7,321	6,143	3,182	2,981	731	214	482	35	447	287	10	72	78	0	0	106	0	106	0
5月	20,992	6,923	5,441	3,024	1,617	801	213	543	45	681	71	15	68	527	0	0	30	0	0	30
6月	18,875	3,319	2,873	2,073	0	383	179	111	73	283	144	20	55	64	0	0	0	0	0	0
7月	43,502	13,453	12,464	5,966	6,488	691	368	286	27	286	88	17	95	96	0	0	693	0	0	693
8月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
11月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
12月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	104,838	31,216	26,921	15,825	11,096	271,410	974	1,432	180	1,708	590	62	290	767	0	0	829	0	106	723